

令和 5 年

加茂市教育委員会 9 月定例会会議録

令和 5 年 9 月 4 日 開会

令和 5 年 9 月 4 日 閉会

加茂市教育委員会

令和5年加茂市教育委員会9月定例会会議録

令和5年9月4日加茂市役所5階第1委員会室において、令和5年加茂市教育委員会9月定例会を開催した。会議の概要は、次のとおりであった。

1 会議に付した事件

- (1) 会議録署名委員の指名
- (2) 会期の決定
- (3) 報告
- (4) 次期教育委員会期日の決定

2 出席委員（5名）

教育長 山川雅巳君 1番 乙川智子君 2番 田邊俊樹君
3番 藤田和子君 4番 太田正純君

3 欠席委員（0名）

4 説明のため出席した者（10名）

庶務課長 草野智文君
学校教育課長 阿部一晴君
社会教育課長民俗資料館長 有本幸雄君
スポーツ振興課長勤労青少年ホーム館長 粂山太君
庶務課課長補佐庶務係長 長澤敦君
学校教育課課長補佐学事係長 茂野幸栄君
社会教育課課長補佐公民館長 波塚一朗君
社会教育課課長補佐図書館長 細貝秀樹君
社会教育課課長補佐社会教育係長 中澤資裕君
スポーツ振興課課長補佐兼温水プール館長兼温水プール管理係長 和田正利君

5 会議の概要

午後1時30分 開会

〔開会の宣言〕

○教育長(山川雅巳君) 令和5年加茂市教育委員会9月定例会の開会を宣言する。

〔会議録署名委員の指名〕

○教育長(山川雅巳君) 2番 田邊俊樹君を指名する。

〔会期の決定〕

- 教育長（山川雅巳君） 会期は本日1日に決定する。

〔報告〕

- 庶務課長（草野智文君） 「広島平和記念式典等の視察について」を報告する。

来年度以降、市内中学生を平和大使として派遣するための是非を検討するため、令和5年8月4日(金)から8月7日(月)、広島県広島市で開催された広島平和記念式典及び式典関連行事、原爆遺構等を視察した。視察者は、藤田市長、山川教育長、井上総務課長、若宮中学校の田中校長、草野庶務課長の5名であった。

1日目(8/4(金))と2日目(8/5(土))は平和記念公園全体、袋町小学校平和資料館、旧日銀広島支店、原爆ドーム、おりづるタワー、燕市平和大使団が開催した被爆体験講話を見学した。3日目は広島平和記念式典に出席後、国際会議場、厳島神社、灯籠流しを見学した。4日目は本川小学校平和資料館を見学した。

時期が真夏であり、暑さ対策を十分にしないと体調を崩すこと、実際に式典に参加したり被爆地を見学することは中学生にとって貴重な体験となる可能性が高いこと、混雑するため余裕を持った工程を組む必要があることなどを学ぶことができた。また、加茂市で事業を実施するに当たり、いくつかの課題が見えてきた。

視察後、今回の視察に当たりご教授いただいた燕市教育委員会による広島平和記念式典派遣事業報告会(8月27日(日)開催)も見学することができ、大変充実した視察であったと認識している。

- 委員（田邊俊樹君） 加茂市では来年度から実施する方向で動いているのか。
- 庶務課長（草野智文君） 今回の視察を関係課と総括し、実施体制の構築及び必要な予算編成等の可能性を検討したうえで判断したい。
- 委員（田邊俊樹君） 仮に加茂市でも実施するとなった場合の日程はどうなるのか。
- 庶務課長（草野智文君） 参考にした燕市など、事業を実施している多くの自治体が2泊3日(今年度:8/5~8/7)の日程で実施しており、加茂市でも実施するとなれば2泊3日になる可能性が高い。
- 委員（田邊俊樹君） 燕市が開催した広島平和記念式典派遣事業報告会はどのようなものだったのか。
- 庶務課長（草野智文君） 県内市町村の中でも燕市は丁寧に事業を展開していることから今回の視察に当たり、視察準備段階から燕市の取り組みを参考にしていた。燕市の報告会は燕市中央公民館を会場に、例年一般市民にも開放して開催している。派遣生徒5名がそれぞれテーマを決め、事前学習を行い、事後のまとめ、報告書の作成等にも熱心に取り組んでいる。燕市教育委員会の指導主事、職員による十分なサポート体制も構築していた。
- 庶務課長補佐庶務係長（長澤敦君） 会場の燕市中央公民館は150席を用意したが満員であった。一般市民の他、燕市議会の多くの議員、小中学校の発展を願う市民

の会の方々などが参加されており、中学生だけではなく多くの市民にとっても平和を考える良い機会であるという意見が寄せられていた。

- 教育長（山川雅巳君） 加茂市でも実施したいという思いがあるものの、教育委員会では小中学校の適正化等、様々なプロジェクトを抱えており、中途半端な体制では効果を上げることができないため、市長部局と十分に協議していきたい。
- 委員（乙川智子君） 燕市が行っている派遣生徒の事前学習では、具体的に何を学習しているのか。
- 庶務課長（草野智文君） 燕市では各中学校からの推薦者と教育委員会が面談を行い、7月に派遣生徒を決定している。派遣された先輩の姿を見て興味を抱き、自ら学習している生徒が選抜されているようだ。事前学習では、原爆投下の歴史的背景、戦時下の生活、原爆の被害・惨状、戦後の復興等をテーマに指導主事によるサポートのもと、レポートにまとめているとのこと。派遣生徒5人が事前に燕市役所に集まり互いの学習内容を知り、派遣中も随時コミュニケーションをとっている。派遣後もそれぞれの生徒が広島平和記念公園、広島平和記念資料館、記念式典、鑑賞した演劇、被爆者体験講話をテーマにレポートにまとめ、リハーサルを経て報告会を開催している。
- 委員（乙川智子君） 燕市の中学校では、特別に時間をとって平和教育の授業を行っているのか。
- 庶務課長（草野智文君） 派遣生徒による事後の報告会を中学校毎に開催し、啓蒙していると思われるが、派遣前の特別授業としては行っていない。
- 教育長（山川雅巳君） 授業ではなくても、平和の願いが詰まった千羽鶴を派遣生徒が代表して奉納しており、全生徒が少しでも関わることができるよう指導しているようだ。
- 委員（乙川智子君） 仮に加茂市でも実施するとなれば、事前学習から事後の報告会まで、燕市と同様なことができるのか。
- 庶務課長（草野智文君） 燕市には複数の指導主事が配置され、そのうちの1名と事務職員1名が中心となり実施しており、丁寧な事業展開を可能としている。加茂市で同じことをやろうとしても現体制ではなかなか難しいと思う。加茂市の現体制で実施するとなれば、本事業における指導主事の役割を学校勤務の教職員にお願いすること、燕市よりやや簡素な事業内容とすることなどが条件になると思う。
- 庶務課長（草野智文君） 「加茂市立小中学校適正化方針の骨子（案）について」を報告する。

加茂市立小中学校適正規模等検討委員会による「加茂市立小中学校の適正規模・適正配置の在り方 答申」、「加茂市立小中学校の適正規模等に関する市民アンケートの結果」、本年7月の総合教育会議における協議を踏まえ、「加茂市立小中学校適正化方針の骨子（案）」を作成した。

内容としては、適正規模を小学校で12～18学級（各学年2～3学級）、中学校で9～18学級（各学年3～6学級）とし、適正配置は原則、小学校で片道概ね4 km、中学

校で片道概ね6kmとし、スクールバスを活用し、児童生徒の負担を軽減するものとしている。また、適正規模・適正配置を実現する手法として、「学校の統合」が最も有効な手段であるとし、小学校を1～2校、中学校を1校に再編する方針としたものである。再編時期は今後のスケジュールを踏まえ、小中学校ともに令和10年代初頭に設定した。教育委員会の了承、市議会に報告したうえで、ホームページ等で公表する予定である。

今後は公共施設アクションプラン及び長期財政シミュレーション上において、他の公共施設整備や主要事業との調整を行ったうえで「実現可能なもの」とする「適正化方針」の策定に取り組む予定である。

○委員（太田正純君） 先般の総合教育会議等において、小中学校適正化と財政状況の関連性について協議を重ねてきており、適正化方針骨子の内容は概ねよろしいと考える。ただし、これまで協議してきたことから言えば、再編時期について優先順位を示すべきではないかと思う。小学校と中学校の再編時期を同一にするか、中学校を優先しなければ、再編後の小学生が再編前中学校へバラバラに進学することになる。

○庶務課長（草野智文君） お見込みのとおりである。再編は小学校と中学校と並行して準備するものの、時期は同時期または中学校を優先する旨の文章を加えることを前提に市長及び関係者と擦り合わせを行う。

○社会教育課課長補佐公民館長（波塚一郎君） 「令和5年度 第1回 加茂市公民館運営審議会について」を報告する。

令和5年8月17日(木) (14:30～) に令和5年度 第1回 加茂市公民館運営審議会を開催した。主な報告事項・議案は、役員を選任について、令和4年度加茂市公民館本館・分館の事業報告について、令和5年度加茂市公民館本館・分館の事業計画及び予算について、令和6年度加茂市公民館の運営方針等の諮問についてであり、多くの意見等をいただきながらも全て了承を得た。いただいた意見を踏まえ、より良い公民館活動の運営に努めたい。

○委員（田邊俊樹君） 公民館で開催している「初心者教室」は種目を絞って開催しており、「料理教室」も参加者が固定化している傾向があるため開催回数を減らしているが、参加者の反応は如何なものか。

○社会教育課課長補佐公民館長（波塚一郎君） 多くの事業、教室に公費を投じるのではなく、効果を検証して取捨選別する必要がある。それを踏まえ、参加者が納得する説明をしていく。

○スポーツ振興課長勤労青少年ホーム館長（靱山太君） 「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会について」を報告する。

令和5年8月8日(火) (6:00～) 加茂市陸上競技場にて夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会を開催した。前日は雷雨であったが当日は晴天に恵まれ、無事に開催することができた。なお、参加者数は823名であり、目標より下回った。

○委員（乙川智子君） 市民にどの程度周知できたのか。当日、地区によっては夏

休みの小学生ラジオ体操を通常どおり開催しており、夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会開催を知らない多くの市民がいたのではないか。

- スポーツ振興課長勤労青少年ホーム館長（靱山太君） 送迎バスの案内を兼ねて全小学生に周知したほか、老人クラブ、スポーツ少年団等にも周知した。また、市ホームページ、市SNS等を通じて複数回お知らせし、NHKもテレビやラジオでお知らせしていたが、思う様な参加者数には至らなかった。広報の仕方を検証し、次のイベント開催に生かしていきたい。
- 委員（太田正純君） 目標としていた参加者数ほどの程度であったか。
- スポーツ振興課長勤労青少年ホーム館長（靱山太君） 前回開催時（平成30年度）の参加者数が1,300人であったため、これを目標値として設定していた。
- 学校教育課長（阿部一晴君） 「令和5年度 北信越中学校総合競技大会の結果について」を報告する。

令和5年7月31日(月)から8月4日(金)に石川県で開催された令和5年度北信越中学校総合競技大会に体操男子個人で若宮中学校、新体操女子団体で加茂中学校、卓球女子団体・個人で若宮中学校の生徒が出場し、目覚ましい活躍を見せた。

- 庶務課長（草野智文君） 「8月教育行政会議について」を報告する。

令和5年8月30日(水) (9:30～) 8月教育行政会議を開催した。

令和5年8月19日(土)から8月24日(木)、国際交流協会会長と総務課国際交流係の職員によるニュージーランド視察の報告を行った。市内児童生徒の異文化体験・国際交流を推進するため、ニュージーランド、ノースランドにあるファンガレイという都市に「Kamo」という地区があり、同じ地名をご縁にして交流できないか検討するための視察であった。交流生の受入・出向体制の構築、予算編成、交流時期等が課題であり、加茂市としては交流する意思があるものの、課題解決に向けて検討していくことにした。

前回7月の会議からの進捗状況としては、「放課後児童クラブの民間委託及び有料化に向けての取り組み」について、田上町の運営方法を調査済、各小学校に児童クラブが点在している状況でも民間委託が可能であることを確認した。

各課重点事項について、庶務課所管としては、小中学校適正化方針の骨子について、市長レク等を経て市議会9月定例会で説明し、公表することを確認した。

学校教育課所管としては、今年度中の校務支援システム導入に向け、入札が終了し、小中学校担当者と打ち合わせを重ねていることなどを確認した。

社会教育課所管としては、旧生田屋利活用の可能性を専門家から調査してもらう費用を追加する補正予算案を市議会9月定例会に上程することなどを確認した。

スポーツ振興課所管としては、令和6年度の勤労者青少年ホームの廃止に伴う公民館への事業・講座の移行について、各講座及びクラブへの説明が概ね終了し、了承を得られていることなどを確認した。

- 委員（乙川智子君） コロナ禍前はロシアのコムソモリスク・ナ・アムーレと交

流しており、ロシアの子ども達は加茂市を通じて日本の文化、魅力を知ることが趣旨であった感がある。ニュージーランドのファンガレイとの交流をすれば、こういった趣旨になるのか。学校の授業にも参加してもらい小中学生同士が交流することなどが趣旨になるのか。

○教育長（山川雅巳君） これから検討していくことになる。先方が加茂市に出向く場合、保護者が費用を負担することを前提にしていることもあり、これまでのやり方を踏襲するのではなく、先方と協議を重ね、互いにメリットが生まれるようなものにしていく必要がある。

○委員（太田正純君） 資料によれば、加茂市に出向きたいという先方の子どもの数は30人程度だとのことであるが、仮に加茂市から先方に出向く場合、同程度の人数を想定しているのか。

○教育長（山川雅巳君） 予算規模にもよると思う。仮に費用を全額公費で賄うとなれば多くの子どもが手を挙げるかもしれないが、費用の5割を保護者が負担することとなれば、どれだけの子どもが手を挙げるか、今のところは想定できない。手を挙げた子どもが15人でもやるのか、それ未満でもやるのかどうかなど、先方と協議を重ね、今後検討していく予定である。

なお、ファンガレイは市にあたるが、「Kamo」は地区にあたる。今のところ、市同士の交流ではなく、「Kamo」地区と交流するというイメージとなる。

○庶務課長（草野智文君） まずは視察を行ったということであり、課題を整理しているところである。課題等を整理したうえで、あらためて報告、相談させていただきたい。

○委員（乙川智子君） 小中学校適正化、紙漉場、集落支援員制度の取り組みに関連し、小中学校再編後は廃校した小中学校を紙漉きや加茂の自然、魅力を学び、発信できるような施設として活用しても良いのではないかと思っている。小規模特例校の制度を活用するなどのアイデアがあっても良いと思う。

○教育長（山川雅巳君） 小中学校の再編に併せ、教育課程の編成、廃校した学校施設の活用方法を考えなければならない。委員提案の件については、小規模特例校の制度を活用しなくても、新たな教育課程の編成に生かすことは可能である。

○委員（藤田和子君） 今年の夏、自分が運営している放課後デイサービスの子ども達とともに加茂紙漉き場を見学し、紙漉き体験を行った。子ども達は、興味深く説明を聞き、熱心に取り組んでおり、大変有意義なものであった。ぜひ、新たな教育課程の編成に生かしてもらいたい。

○社会教育課長民俗資料館長（有本幸雄君） 国の制度を活用し、10月1日付で鶴巻由加里氏を集落支援員として委嘱する準備を進めている。鶴巻氏は伝統和紙の復活を志し、加茂紙漉場で紙の生産、冬鳥越スキーカーデンで原料（楮）の栽培に取り組んでいる。その経験を活かし、主に七谷地区の方々と意見交換を重ね、地域課題の解決に尽力していただく予定である。先週、七谷地区区長会会長及び副会長に説明し、快く了承をいただいた。楮の栽培には休耕している畑を活用し

てはいかがかとの提案もいただいたところである。

- 学校教育課長（阿部一晴君）（「その他」として、）「9月以降の教育委員会事務局人事について」を報告する。

9月1日付けで加茂南小学校に学校看護師を配置することにした。医療ケアが必要な児童生徒が通学する小中学校には配置しなければならないとされている。

また、ALTのアンディー氏が9月30日付けで退職することになったため、後任の候補者選定を国にお願いしているところである。

- 庶務課課長補佐庶務係長（長澤敦君）（「その他」として、）「乙川教育委員の任期満了に伴う再任について」を報告する。

乙川教育委員の任期が令和5年10月2日で満了となることから、市議会9月定例会に再任の議案を上程する。承認議決を得ることができれば、10月3日付けで再任、4年間の任期となる。

また、市議会9月定例会における教育委員会関連の議案としては、放課後児童クラブ支援員を増員するための経費（約4,300千円）、加茂南小学校に学校看護師を配置するための経費（約1,600千円）、旧生田屋の調査費（約3,200千円）を含む補正予算を上程する予定である。また、全員協議会では加茂市立小中学校適正化方針の骨子、勤労者青少年ホームの廃止について市議会に報告する予定である。

- 委員（太田正純君）新たに学校看護師を雇用できても小中学校全体では1人であるため、仮に急に退職することになって困ることがないように対策を講じなければならない。
- 学校教育課長（阿部一晴君）これから入学してくる子どもの状況を把握し、適切な就学支援に繋げるとともに、学校看護師が不足することがないように努めたい。

〔次期定例教育委員会期日の決定について〕

- 庶務課長（草野智文君）（別紙 行事予定により）説明。
ー異議なしー
- 教育長（山川雅巳君）教育委員会10月定例会は10月3日(火)午後1時30分から決定する。

〔その他〕

- 教育長（山川雅巳君）全体を通して何かございませんか。
ーなしー

〔閉会の宣言〕

- 教育長（山川雅巳君）令和5年加茂市教育委員会9月定例会の閉会を宣言する。

午後3時30分 閉会

会議録作成者
庶務課課長補佐 長 澤 敦

この会議録が正当であることを証し、新潟県加茂市教育委員会会議規則（昭和63年教育委員会規則第5号）第32条第3項の規定により署名する。

加茂市教育委員会教育長 山川 雅己

加茂市教育委員会委員 田邊 俊樹